

まず皆さんは、このたびの新規採用職員に採用されまして、まことにおめでとうございます。そして、よく市町村の職員になっていただいたという意味で、私からもお祝いとお礼を申し上げたいと思います。今回の研修の目的は、資料を見ましたら、意識の確立、知識や技能の習得、適応能力の養成。この2日間でやってもらうことは大変難しいと思いますし、日々勉強、一生勉強であります。私の話が何かそのきっかけになれば、何か一つ記憶に残っていただければ、ありがたく思っております。皆さんが新しく採用された意気込みなどを、折にふれて皆様と見ていきたいと思っております。

自己紹介ですけれども、私も元々は公務員です。ですから、逆に言えば公務員しか知らないわけで、今、数えてみましたら、53年間公務員をやっているのです。驚きましたけれども、半世紀を超えているのですね。そのようなことで、公務員のことはよく知っていますが、逆に言えば民間の会社経営や工場の生産のことなどは全く知りませんので、皆さん、ぜひ役場村や市役所村を作らずに、外の人と交流していただいて、役場・市役所だけではなくて、そのような民間の行動様式も学んでいただければと思っております。

私の自己紹介をもう少し具体的にいたしますと、青木村で生まれて、東京の学校を出て、まちづくり、都市計画をやりたかったものですから、埼玉県庁に入りました。そして、36年間県庁でお世話になりまして、特に住宅都市部や企画財政部など、まちづくり、地域づくりを中心にやってきたわけです。大きな仕事をさせていただきまして、大宮駅を過ぎて、新幹線で行くと左側にさいたま新都心がありますけれども、あそこを造った時の課長であったり、サッカースタジアムの周辺や大宮の駅の開発や整備など、大きなプロジェクトも担当させていただきました。

34歳の時に、2万人の大井町という町が川越の池袋寄りにあるのですが、その都市計画課長をさせていただいたり、菖蒲町の助役や、現場を終わってから大井町の昔いたところの助役、そして、合併したふじみ野市の副市長などをして、70歳にして戻ってきて青木村の村長をさせていただいて、今に至るわけです。ですから、市町村職員の皆さんの立場や悩みなどは、よくよく分かっているつもりでございます。青木村は、皆さんの所の首長は何代目でしょうか。私は、戦後3人めなのです。私はまだ6年ですけれども、その前の方は20年、その前の方は46年と、ギネスブックもので、大変長寿の村でもあります。

今日は、公務員としての皆さんの心構えや、私ども首長から新規採用職員の皆さんへの期待。それから、長い人生の私の失敗も含めたアドバイスができればと思っておりますので、よろしく願いいたします。非常にわずかな時間なので、少しレジュメを作ってきましたけれども、それに沿ってしていきたいと思っております。その前に、一つ皆さんにお伺いしたいのですが、皆さんが今、お住まいの住所と勤務先の違う人は、どのくらいおられますか。大体は、自分の出身地の行政体に入ったということですか。分かりました。それでは、着座にて失礼いたします。レジュメが行っていると思っておりますが、それをごらんください。少し早口でいかないと、60分ですから、間に合わないかと思っておりますので、よろしく願いいたします。

まず、仕事について、学ぶことを大事にしてください。長野県は、5か年計画で自治と学びなどをやってきました。江戸時代の末期、寺子屋の数は全国一、長野が多かったそうで、学ぶことは、長野県の人が大変得意とするところですよ。一般教養の向上、それから、月刊誌ということですけども、公務員でありながら、幅広く勉強していただきたいと思います。失礼な表現ですが、自分の専門ばかりにではなく、幅広く勉強していただきたいと思います。また、月刊誌で、また先輩に聞いてもらえれば、初級向けや中級向け、あるいは専門的な雑誌がありますので、そのようなものをひもといてください。

2、「法律の勉強をする」についてですけども、私どもの仕事は、全てが法律に基づいて、あるいは条例に基づいて、制度に基づいています。ですから、何割かは法律を学んできた方かもしれませんが、ぜひ法律を学んでください。法律は、必ずしも常識とは同じではないということをおっしゃっていただければと思います。それから、仕事の中で、何条何項と出てきます。全て民法を丸暗記することは大変ですから、出た時にその条文の何条何項を見て、法令や規則などを見て勉強していただく。そのような方法をお勧めしたいと思いません。

それから、自治体を学んでもらいたい。先ほど住んでいる所と自治体は違いますかと聞いたのはここです、私どもの役場にも3人、補佐を含めて入っていただきましたけれども、3人のうち1人ですか、外から来られました。他府県の方です。ですから、例えば大字名で言えば大体分かる、中学校で言えば分かるなど、大きい市は合併したりして初めて聞くような所もあるかもしれませんが、3か月、半年は我慢しても、大字名や小学校がどの辺りにあるかぐらいは、ぜひ学んでください。土曜日、日曜日を使わないと勉強になりません。私は、市町村へ行くと、自転車を借りて回りました。県庁から大井町へ出向した時に、昼休みに自転車で町内の地図を持って行ったら、役場の方向が分からなくなったという笑話もありますが、ぜひ歴史や文化など、データはたくさんあるはずですから、地元のことを、自治体を学んでいただきたいと思いません。

また、1年先、10年先、20年先を、ぜひ学んでいただきたい。都市計画法という法律があります。43年制定、昭和45年施行ですけども、25年先のまちづくりを目指そうということで、この法律はできました。しかし、25年たってみると、やはり短い。50年先の各市のまちづくりを考えようということになったわけです。皆さんは、これからまだまだ30年、40年を過ごすわけですから、先々を見越して、必ずそのとおりにはいかないですけども、時々修正をしながら、冒頭の1で申し上げましたように、一般教養を勉強しながらやってください。

5ですけども、やはり人と人が仕事をするのです。今日来た仲間は、またどこかでお会いすると思います。ですから、民間の人を含めて、一度名刺交換をします。その名刺や電話番号、あるいはメールアドレスは、必ずどこかでまた使うことがありますので、このようなことを蓄積していくことが、非常にプラスになると思っております。また、若いうちは、いろいろな仕事ということで、これから異動があります。私どもの役場も、原則3

年したら大きく振り子を振って、異動してもらいます。若いうちは、技術屋さんもいらっしやいますし、保母さんはそのようなわけにいきませんが、ぜひいろいろな職種の仕事をしてください。保母さんは、私ども1園しかないものですから、上田市にお願いしまして、人事交流をして園を替わっていただくということをしております。

7番です。何か事があつたら、住民から要望があつたら、苦情があつたら、必ずすぐ現場へ行ってください。住民の要望は、まず聞いてもらえば、それで全てがいいというわけではありませんけれども、一度市役所の人に来てくれれば、それで半分仕事が終わったといいましようか、住民の苦情は回避できます。まず現場に行って、上司に報告するときは、写真も簡単に今は撮れますから、「こんな状況です」ということで、現場をまず知らなければなりません。

それから、「根回しを忘れずに」ということで、これは少し先のお話になるかもしれませんが、会議を主催する、あるいはプロジェクトを立ち上げる。そのときに、いきなり集めてぽんと出すのではなくて、関係する人、あるいは強い意見を持っている人、いいアイデアを持っている人たちにいろいろな意見を聞いて、自分のアイデア、あるいは資料をまとめていくということで、根回しを忘れずにということは、そのような意味です。

それから、「世の中の動きに敏感に」ということで、平成の合併、昭和の合併がありました。今、1,718市町村がありますけれども、3,304あったものが半減しているのですね。そのときに合併してよかったか、悪かったかということは、今、十何年たって評価されています。青木村は、合併しなくてよかったということが結論です。合併してよかった所ももちろんあるわけですが、これから皆さんは「2040」という数字を聞くことになります。小さな自治体が、少子化・高齢化で人口が減った時に自治体を維持していくためにはどのようにすればいいかということで、広域連合だけではなく、もう少し緩やかな連合を、共同で事務をしていくという方向になっていきます。

これは公務員的なものだけではなくて、例えば、トランプがどのような動きをしている。だから農業は、ワインは、チーズはどのようになるというように、自分に関係することがたくさんあるわけです。保母さんも、少子化の中でどのようにしていくのか。保・幼が無料化に10月からなりますけれども、そのようなことが、どのように保母さんの仕事に影響するか。必ずするわけですから、そのような要素にも敏感になっていただきたいと思えます。

ページをめくってください。「報・連・相」という言葉を、今後皆さんは、よく耳にすることになります。報告・連絡・相談です。上司である係長は、皆さんに「何をやってね」「何を調べてね」と言います。皆さん一生懸命やるのですが、今すぐではなく半年後の話でも、すぐ報告できる状態にならないかもしれません。難しい話であればそうかもしれませんが、「今、どういう状況です」と。「あれを調べてね」と言ったけれども、「今、調べていますけれども、あのデータがないので、あそこへ問い合わせしておりますから、もう少し待ってください」など、進捗状況を、指示されたことを、途中経過の報告も含め

てください。連絡も、落としてしまったりすると、会議も空転したりします。

また、相談も、必ず同僚・上司、関係する人にしてください。簡単なことでもけっこうです。私が職員にお願いしていることは、不在のことが多いものですから、紙に書いて、メモ用紙を机の上にセロテープで貼りつけておいてください、パソコンに貼りつけておいてくださいとお願いしております。簡単なことでいいのです。「誰々さんが来て、こう言ってきました」。それが、上司にとっては大変貴重な情報なのです。皆さんは、情報ではない、あるいは大したことではないと思うかもしれませんが、上の人がどのように考えているか分からないわけですから、ぜひ報告・連絡・相談を小まめにしてください。これは、上に立つとよく分かるのです。ささいなことでもけっこうですから。皆さんはささいだと思っても、上から見たり、あるいは議員さんから見れば、決してささいでないことも多いわけです。報・連・相は、耳にたこができるまで、これから聞くことになると思います。

11番は、私どもは公務員ですから、低価格など、そのようなことは関係ないということではありません。住民の皆さんが、このような制度が欲しい、このような補助金が欲しい、このような予防接種の何が欲しいというときに、臨機応変に、そして、低価格でということは、税金で皆さんの給料は、生活は成り立っているわけです。いいですか。そこの居眠りしている2番めのかた、大丈夫ですか。起こしてやってください。大丈夫ですか。

低価格でということは、紙1枚、鉛筆1本、ボールペン1本は税金です。皆さんは、今まで納税したことは原則ないわけです。私は紙1枚、鉛筆1本と言っておりますけれども、ぜひ納税者の気持ちに立ってやってください。皆さんは、お金を数字としか思わない現場、仕事が多いのです。しかし、やはり現金なのです。お金なのです。私どもの村は4,400人で、1人当たり8万3,000円納税しています。決してその納税で、全ての仕事が回っているわけではありません。国の補助金や交付金、あるいは、民間の寄附を頂いたりしております。ですから、ぜひ低価格ということも覚えてください。同じ寸法、形状、材質、強度が同じものであれば、安い方を選ぶ。そのような工夫、努力、知識の習得をしていただきたいと思います。

資格の取得、国家試験などがあります。ぜひ長い人生、皆さんも何か一つトライしてください。決して今、仕事に関係しなくても、自分の得意なものや、これから使えるものなど、資格は自分の気持ちを高揚させるためにも必要ですし、じゃまなものではありません。一つに取り組んでいけば、必ず将来生きることになります。

私どもの村では、職員に自己申告を書いてもらっています。1年間、どのように仕事に苦労してきたか、工夫してきたか、住民対応をどのようにしてきたか。そして、「異動は、こういうところを希望したい」と。そのときに、「あなたの持っている資格は何ですか」と言います。たまたま図書館の司書をどのようにしようかと思っていたら、司書の資格を持っているので、その人を異動させたこともあります。皆さんが今まで学んできたことの延長の資格。国家試験でなくても、あるいは英検でもけっこうですし、ぜひトライしてください。私の友人で25も持っている友達がいて、「料理のことなども」というような

人もいますけれども、将来使えるものをぜひと思っております。

「考える行政を」、そして、「組織として決定したことに従う」ということですが、忙しいのです。皆さんも、これから非常に忙しい職場に行きます。上司も忙しい。住民対応など、ゆっくり勉強する間もないくらい忙しいのですが、みんなで議論をして方向を決める。短時間でもいいですから、私は昔、課長をしていた時は、立って朝礼をやりました。係長、課長などの集まりで、5分、10分でやりました。皆さんも、今後、上司に言ったり、あるいは係長になったりしたら、ぜひ考える行政をしていただきたい。

組織として決まったことには従ってほしいというのは、自分の意見に沿わないことも、正直に言って、ままあります。そのようなときにどうするか。これは、議論して機関決定したことです。ぜひ従ってください。よく、これは民間の人ですけれども、決まった会議のあとが会議だというくらい、会議が終わったあとに「ああじゃなかった、こうじゃなかった」と。「そんなこと言うなら、会議の席で言ってくれ」と言うのですけれども、決してわれわれはそうではなくて、不服といいましょうか、組織として決まったことは、やっていたらと思えます。

14番ですけれども、公務員の自殺も、ままあります。私の隣の課でもありました。プライベートまで入り込んではいけませんけれども、私も職員の顔を見ながら、彼の今日の顔つきやどうか、声の張りはどうか、「少し元気がないな」などと思っています。悩みは、一人で抱えない。仕事ですから、当然組織でやっているわけですから、クレーマーがたくさんいます。残念ながらそのようなことになってはいますが、ぜひ悩みは組織で解決していただければと思っております。遠慮しないで上司に言ってください。

それから、私どもの目指すところは、やはり住民の福祉の向上です。住民の福祉の向上には、お金が必要です。ですから、稼げる自治体。それがいいか、悪いかは別として、後ほど申し上げますように、交流人口や関係人口などを増やして、来ていただいて、物を買っていただくというようなことを含めて考えておりますけれども、財政豊かな自治体になるようにということも、大変大事な一つであります。また、市政に近道はなし、村政に近道はなしということで、ショートカットはない。愚直に、与えられたことを一生懸命やるしかないということです。

3、志について。志を高く、初心忘れるべからず。公務員に期待されることは、話がよくできて、ヒアリングがよくできて、法律が読めて、財政の計算ができて、いろいろなアイデアを出して実行できる。神様のような職員ですけれども、このようなことを期待されているわけです。昔は「読み書きそろばん」と言いましたが、今でも、話して、聞けて、読んで、計算して、アイデアを出す。

私も県にいて、村にも今、いますけれども、概して村の職員は、人の前で話すことが県の職員に比べて多いですから、大変話は上手です。もう一つお伝えしたいことは、聞き上手になってほしい。特に住民の皆さんと話すときに、住民の皆さんは、話したくて来るのです。もう少し言えば、役場や市役所は、非常に敷居が高いのです。なるべくなら役場へ

行きたくない、市役所へ行きたくないということで、一生に1回か2回しか来ないのです。死亡届や出生届、婚姻届など、そのようなことしか来ない。ですから、役場の窓口の人には、「あなたたちは役場の代表だから、これで役場の評価が決まるから、笑顔でやってね」と話すのですけれども、ぜひ皆さんには、聞き上手になってほしいと思います。

冒頭に言いましたように、役場に文句を言ってやろうと来て、「そうですか、それは大変でしたね」と聞いてあげることが大事で、いきなり「そう言っても、こうこう、こういう理由でできない」と言うのはだめです。「だめだ」と言うことは誰でもできるのです。皆さんは、これから住民の人が来たら、ぜひ聞き上手になって、「これを赤にしてくれ」と言われたときに、赤はだめだけれども、少し白を入れてピンクであればいいというアイデアを出してあげる。私も県の職員にありましたけれども、「共に悩み」と言っておりました。市町村の人は困って来るのだから、共に悩み。これはだめだけれども、この条例の、あるいはこの規則のこれを使えば、この補助金を使う方法もあるというような、次策を言えるように勉強してねと言ってきました。ぜひ聞き上手になってください。

「読み」は、法律です。特に税制は難しく、どこが主語か述語か分からないような長文ばかりです。そうは言いながらも、先ほど言いましたように、関係するところは、ぜひ六法あるいは関係法令をひもといて、「ここのことか」というような勉強をしていただければと思います。

「計算」は、電卓をたたくということもありますが、大所高所で物を見ながら、5年先、このプロジェクトをやるとプラスになるのか、マイナスになるのかということ。私は、新聞を5紙読んでいます。くまなく読むわけにはいきませんが、読むといろいろなアイデアが出てくるのです。ヒントがあるのです。そのヒントを活用していますけれども、官庁速報など、毎日回ってくる資料を大事にしております。そのところを切り取ったり、新聞に赤のサインペンで大きく「回覧」と関係課へ置いてくるのですけれども、ぜひそのようにしてください。

「実行できる」という、この実行が難しいのです。若いですから、とにかくぶつかっていってください。何と言われようと、上司にぶつかる、住民にぶつかる。そのようなことができる職員を期待しております。「一期一会を大切に」。今日来た皆さんは、100人ぐらいいらっしゃるのでしょうか。この組織で、どこかでまた、同じ身ですから、どこかでお会いするわけですから、一期一会を大切にしてください。それから、大きい市役所へ行くと、異動があって、いろいろと人が替わったりするかもしれません。あるいは民間の人、あるいは民間の団体と関係を持つわけですから、そのような一度の出会いを大事にしてください。

それから、何か一つ秀でたもの。先ほど国家試験のことで申し上げましたが、これから皆さんは40年近く勤めるわけですから、与えられた組織以外のことをやっていくことになりましてけれども、何か得手の部分、あるいは人のやらないようなことをやれば、「このことは、今、直接やってないけど、何課の何々君に行けば、誰々さんに行けば分かる」と。小

小さなことでも大きなことでもいいですから、ぜひこれをやっていただきたい。何かこれから見つけてください。

「失敗を大切に」。私は、山ほど失敗してきました。「ああすればよかった」「あのとき、こう言えばよかった」と、しております。「失敗はしかたないことだ」とありますけれども、これは、法律に違反するというような失敗ではなくて、もっと早くやればよかった、あそこに一言言っておけばよかったということですが、失敗はたくさんあります。同じ失敗をしないように学んで、失敗を自分の糧にしてください。

そして、「先例に学べ」。これも4と関係するのですけれども、反面教師。人の失敗も含めて、新聞などでいろいろな公務員の悪い話も出てきます。新聞記者や放送記者は、公務員の、あるいは自治体の失政を喜んで書きます。本人が喜んでと言っていましたけれども、悪いことも含めて、先例に学んでやるのが大事です。私も、大きなプロジェクトを起こすときは必ずいろいろと学んで、特に失敗が勉強になるのです。人間は、同じ失敗を必ずしますね。そのようなこともありますから。反面教師も含めて。それは、情報源を持っていなければ学べません。「研修で一緒になった何々だけど、あなたの市でこういうことやってるけど、誰か紹介してよ」と。その人に、うまくいった話、失敗した話をたくさんしていただければと思います。その意味で、3段ロケットの場合で考えれば、2段ロケットからスタートすれば、早く、強力なエンジンでできるわけです。「人の苦労を自分のものに」というのも、失敗から学べということになります。

「研修を積極的に受けてください」ということで、市町村の今日の研修もそうですが、長野県の研修や、あるいは、各団体や業界の専門の研修もあると思います。国では、市町村のアカデミーが幕張にあります。ですから、「研修をさせてくれ」と上司に言って、ぜひ研修をしてください。非常に刺激になります。直接、あるいはすぐ仕事に生かせないことがあるかもしれませんが、そのことによって自分を鼓舞することにもなります。ぜひ研修を積極的に受けてもらいたい。先ほどの専門誌、あるいは公務員の月刊誌を読んできたいというのは、このことです。

6です。私も部下に、「いろいろと相談があったら、まず試してみなさい」と言っております。これはサントリーの社長の言葉ですが、「なさざるの罪は責めるが、やってみての失敗は問わない」。だめだと思って最初からやらないのではなくて、とにかくやってみて、失敗は問わない。やらずに住民から言われて、あるいは、災害になってあれをやったことにならなければ、それは問われるということです。ぜひ遠慮しないで、積極的に動ける、働く公務員になっていただきたいと思います。

それから、人事は加点主義です。公務員は従来、しばらく前までは減点主義です。ですから、仕事をしなければ問題は起きないというようなことを公言する公務員がいましたけれども、今は、何をやったか、何を苦勞したか、何を實現できたか。失敗しても、あのことを彼はやってきた、トライしたという、加点主義です。ぜひ皆さん、新入の歓迎会などがあれば、青木の北村がこのようなことを言っていたけれども、私たちの市役所はどうか

と上司に聞いてみてください。心ある、あるいは積極的にやる課長は、加点主義です。そのような職員を期待しているのです、上の人は。

先ほども言いました、「1円たりとも」ということで、納税者の気持ちで。第1役場と第2役場があって、納税者はどちらで納税してもいいというと、サービスのいい方へ納税しますね、当然。ところが、残念ながら我が国の制度では、第2市役所、第2役場はありません。民間の会社は、サービスのいい方に、安くてタイムリーなところに行くわけです。皆さんは、第2役場がない。競争性がない、もうけなくてもいい。民間の人は、1円もうけるために最大の努力をするわけです。連休中も出てくる、夜討ちもする、明け方も行く。そのようにして物を売ったりしているわけです。そのようなことがない代わりに、皆さんは違うことを求められているわけですが、第2市役所があればという気持ちで仕事をしてください。ライバルがいたら、どのようにするかということです。

それから、「住民の目線で考える」。これも、最初のうちはそうですが、だんだん忘れてきてしまうのです。役場や市役所だけにいると、どうしても自分たちの周りの目線で考えてしまうのですが、クレームを言ってくる人が、実は大切な市民、大切なお客さんです。

「制度がこうなっているから、これはできません」と、これは誰でも言えるのです。しかし、「ちょっとこうやれば、できますよ」と。「ここを我慢すれば」、あるいは「ここをプラスにしてください」という公務員になってください。住民の目線から見ると、われわれがよしとしてやっても、マイナスと考える人もいるのです。私は、最後の最後は村長が責任を取ると言うのですが、51パーセントの住民が、最後はその決断ですけれども、住民の目線で考えると、いろいろなことが見えてくると思います。繰り返しになりますが、住民の皆さんは、市役所や役場へ来るのは敷居が高いのです。ですから、出て行って、住民の人と目線を、考え方のベクトルを合わせてお願いしたいと思います。

4です。「同期会を大切に」。民間の人、あるいは同級生や同窓生、あるいは公務員だけではなくて、民間の感覚も必要だということです。青木村に戻ってきて驚いたといひましようか、役場の職員がPTAの会長などをしていて、他にやる人がなくて押しつけられているようですけれども、埼玉にいた時は、県庁の職員がPTAの会長をやるなど考えられませんでした。そのように、ふだんつきあわない人たちとおつきあいすることで、いろいろな発想やアイデア、行動様式が見えてくると思います。ライオンズクラブに入っている公務員もいます。本当に僅かですけれども、市役所村、役場村を作らずに外に出て行って、飲み会も、役場の中の人たちだけでいいは住民の目線にはなりませんので、ぜひそのような感覚も持ってくださいるようにアドバイスしたいと思います。

それから、公務員を半世紀もやってきた者として、自分ができなかったことも含めてですけれども、人生計画を立てるということです。皆さんは二十歳前後の方が多いわけですが、自分が30になった時、どのような人生を送っているか。家庭を持つのか、子供は何歳か、親がどのようになるか。40の時は、50の時は、60の時は。恐らく皆さんは、65が定年になると思います。そのときに、その後どうするのか。それは、途中途中で変わっても



いいのです。変わってもいいけれども、令和元年、西暦から並べて自分の年を考えて、ここで何をするかということを書いてみてはいかがでしょうか。またそれも時点修正をするのですが、人生計画を立ててください。今でないとできないことは、たくさんあるのです。この年になって3,000mの山へ登れと言われても無理ですし、海外旅行で13時間も飛行機に乗っていると大変ですけれども、そのようなことができるような人生計画を立ててください。

男性も女性も、なかなか結婚しない人が多い世の中ですが、私は今、超少子化・超高齢化と言っております。そのようなことに長野県の東信地区は突入しているわけです。そのようなときに、やはり結婚は大事だと思います。個人の結婚ではなくて一般的な結婚で、今、超少子化になっていますけれども、結婚して2.1人の子供ができて、初めて今の人口が維持できるわけです。今、1.7や、東京で1.3レベルですね。そのような中で、結婚をした夫婦は2.1にはなりませんけれども、1.8弱になっています。何が少子化の原因かという、結婚しない男性、結婚しない女性がいて、これも強要すると少しペナルティーが取られるようだけれども、一般論としてそのようなことです。今からということではなくて、今だから人生計画を立ててみてください。

そして、一つでもいいので、趣味を持ってください。先ほどの何か一つ秀でたものということと同じレベルの話になりますが、公務員でも、将棋が強かったり、ゴルフが上手だったり、いろいろな公務員がいます。何か一つ趣味でも持っていたいただければ、退職したり、人の輪が広がりますので、そのようなことをお勧めしたいと思います。

とにかく体が資本です。私も、この年で役場で一番歩くのが速いと言われていました。せっちな性格なのかもしれませんが、体が資本です。この年になると、同級生も歯が抜けるように欠けていってしまいますが、この年で元気に仕事をさせていただけるのも、体が資本だと思っております。皆さん、たばこを吸う人はいますか。絶対にやめた方がいいです。友達を見ていて肺がんになった人も結構いますが、やはりたばこです。

それからもう一つ、大酒飲みはいけません。私の同期生も、親しかった者が10人いましたが、2人が50歳前後で肝臓がんで亡くなりました。本当に酒が強かったです。20代の酒飲みの量が、40になっても下がらなかった。私も皆さんの時は、そののんべえと同じくらい飲んでいたのですが、だんだん下がってきたことが幸いして肝臓がんにならずに済みましたけれども、ぜひ自分の体は大切にしていきたいと思っております。私どもが中学・高校の時代には、健全な肉体に健全な精神が宿ると教わりました。その逆もあるかもしれませんが、あした8時半に絶好調で市役所・役場に行けるような酒の飲み方を、夜の過ごし方をしてください。私も、先輩から「二日酔いでも、はってでも出てこい」と言われたので、電車で通っていた3駅、各駅停車で降りて行ったことも恥ずかしながらありましたが、本当に体が大事です。

「一日一生」。これは、よく言われることですがけれども、特にこの年になると思うのです。一日一日が非常に早いです。1か月も早い。そして、1年も早い。皆さんは、一日一生で

大事にしていけば、60歳になった時に大成いたします。ぜひそのようなことを思っていたいただければと思います。

そして、「旅をしよう」。たくさんのお会い、たくさんのお経験。これは、私が小・中学校の卒業式や入学式でよく言うフレーズですけれども、旅というのは、実際の旅行もありますが、人生の旅を含めて、してください。私がいた職場は、昔は出張をさせてもらいまして、各県くまなく回りましたけれども、一人の旅や団体の旅を含めて、ぜひ違う所で学んでいただければと思います。去年も北海道に行くことができました。道庁に行きまして、タチアカネをたくさん私どもの村はやっているものですから、飛び込みでしたけれども、北海道はそばの生産量は日本一なのです。そのような勉強をしてきました。公務員だということで、役場や市役所へ行けばウェルカムですから、ぜひ違った地域の勉強も習得していただければと思います。

「たくさんのお会い」というのは、なにも役場や市役所だけではなくて、PTAなどの出会いもあるし、趣味の出会いもあるでしょう。たくさんのお会いをしてください。「たくさんのお経験」ですけれども、何か話題のことを読んだり、見たり、経験したり、そのようなことをお勧めしたいと思います。皆さんが将来60歳、70歳になった時、今日このことがそのスタートになりますので、ぜひ自分の手で自分の未来を開いてください。

そして、地域の発展を願うということで、青木村のことを少しお話ししたいと思います。国道143号の青木バイパス、青木新トンネルの建設ということで、このパンフレットが行っております。ごらんください。今まで言ってきたことが、このプロジェクトが実現しつつあるということで、そのような意味でお聞きいただければと思っております。私は、70にして村に帰ってきて村長になったのですが、そのときの課題が、青木村から松本へ抜ける国道143のトンネルがクローズされて、半世紀の願いが実現していなかった。この願いをどのように実現するかということ、このようにやってきたということでお聞きいただければと思います。

国道143は3桁国道ですから、県が管理しています。いずれにしても、国庫補助金がなければできない事業です。トンネルが約150億円ですから、大変な額になります。このトンネルを、どのようにすれば阿部知事は「うん」と言ってくれるか、いろいろと作戦を練ったわけです。知事に会うと必ず、「青木村です。トンネルをお願いします」と。1年もするうちに、知事と会うと「北村さん、言いたいことは分かっていますから」と笑いながら言っただけで、しつこく、熱心に（不明）。高級官僚の阿部さんですから、自治官僚ですから、頭を下げただけではだめだということで、そのうちに知事から、私が長野県知事が「うん」という環境を作ってくださいと言われました。これで、しめたものだと思います。

知事が何に困っているかをいろいろと探していくと、松本・安曇野の皆さんが、高速鉄道の過疎地域なのです。リニアが飯田方面にできたときの前提ですけれども、松本から東京へ出るために、中央線で2時間半。あるいは、松本から長野へ出て1時間40分ほどでし

ようか。松本・安曇野の人たちが、「知事さん、何とかしてよ」と言われているという情報を得ました。一つのプロジェクトを作るために、このようにやってきたということをお聞きいただきたいのですが、四つ方法がありました。一つは、中央線の複線化。篠ノ井線の複線化。だめになりましたけれども、新幹線の千曲駅。そして、この143のトンネルです。

鉄道関係は、JR東日本に頼まなければできない。県ができるのは、143のトンネルだけなのです。私もいろいろとコネクションを通してJRの上層部に聞いてもらいましたが、とてもではないけれども、天文学的な時間と金がかかる。恐らく知事も勉強して、情報を得たと思います。143のトンネルが、150億円の金がかかるけれども、一番早い方法だということで、松本・安曇野の人たちは、上田に来れば一番新幹線に早い。松本から来るよりも1,530円安い。時間も7～8分ということです。

もう一つ運動したことは、知事がそのような環境を作れと言ったものですから、青木村から松本地域の銀行やバス会社、観光業者に行きまして、ぜひ143のトンネルが欲しいということ、松本・安曇野側から声を出してほしいというお願いをしました。それから、上田、筑北、安曇野、松本とあるのですけれども、この五つの議会に議員連盟を作っていました。松本も上田も、全員が参加したのは初めてだったようですが、そのようなところから県議に上げていただき、県議から知事に上げていただくという作戦も練りました。

もう一つ、やはり国庫補助金がなければならぬので、国土交通省にお願いに行きました。幸いチャンネルがありまして、時の国土交通大臣に会うことができました。小さな村が一つのプロジェクトで大臣に会うことはめったにないのですが、紹介してくれる方がいて、ご縁ができた。そのようなことで、時の大臣が、終わってからですけれども、現場を見に来てくれました。先ほど現場主義と言いましたが、前の国土交通大臣が現場を見に来て、この人は京都大学の土木を出た方ですから、「このトンネルはひどいな」と。大型車が通れないのです。93のカーブもありますし、水漏れもするようなトンネルは何とかしなければいけないということから、このプロジェクトがスタートしたわけです。今年は、国庫補助金が新規で採択になりました。これは公務員でないとなかなか分かりませんが、今までは県が調査費をつけてくれていました。5か年計画の中にもこのトンネルの必要性を位置づけてくれましたけれども、国のプロジェクトとして150億円が新規採択されたということは、大変大きなことです。これで、やっとスタートラインにできたと思います。

このパンフレットを村長になった時にすぐに作って、もっと大きな2m×1.5mくらいのものもあるのですけれども、県に行って、広げて見せました。「本当に村が作ったのか」と言われましたが、いろいろな緒言が入っております。広げていただくと分かりますように、上田と松本があって、そこに国宝が並べられていたり、道路の必要性ですね。25分が4分になったり、93のカーブが直線になる。下の方へ行くと、交流。松本と安曇野の中心軸、観光を作る道。それから、佐久は医療圏がしっかりしておりますけれども、上田・小県は松本や佐久に来なければだめなものですから、防災や医療の道。それから、後ろを見てく

ださい。トンネルができると、どのような経済効果が出るか。一番は時間短縮ができるかですけれども、上田から大王わさび園まで1時間20分かかるものが、60分そこそこで行きます。そして、上田駅から松本城まで1時間20分ぐらいかかったものが、60分を切ります。

このようなことをもって、県庁はもちろんですが、松本や安曇野の関係するところを歩きました。一村長がこのようなことをやっていいのかと職員は心配しましたが、一番困っている所、利益を受ける所が大騒ぎしなければだめだということで、やってきました。その結果、大臣も終わった直後に見ていただきましたし、その後、関東地方整備局の局長も現地を見てくれました。その人が幸いにして道路局長になったということで、いい運も向いてきたのかもしれませんが、やはり努力しなければだめだ。努力してきたことで、この半世紀の課題が動き出したのです。いよいよいい方向に風が吹いているという、いろいろな人が、「俺も協力する」と立ち上がってくれたということです。

皆さんは、このような大きなプロジェクトをすぐには任されないかもしれませんが、何か困っていることについて、頭の整理のためにこのような絵を描く。丸と三角、線でいいのですけれども、言葉を書いて、そして電卓をたたいて、どのようなお金が必要か。しかし、その効果として、このような経済効果がある、波及効果があるということを、ぜひやってください。これは一つの例示ですけれども、本当にいろいろな方々が喜んでくれますし、私どもが思わなかったような民間の人が、このような効果があるというようなことを言っていております。今、青木村に、工業団地、工業用地。「空き工場がありませんか」という照会が、結構あるのです。それは、今よりも約6割で、青木村から松本城まで法定速度で34分です。そうすると、工業団地を造りたい。ここを拠点として松本側に打って出たい、松本側と上田側のお客さんの中間に工場を造りたいというようなことが、非常に広がってきました。

もう一つは、道の駅を昨年リニューアルして、オープンしました。非常に去年は道の駅のおかげで売上げがよくて、前年度の倍ぐらいになりました。来た方も、9月・10月はマツタケ景気もあったのですけれども、2か月間で1億3,000万。その前の12か月で1億5,000万ですから。1億3,000万売上げて、約15万人の人が来てくれました。人が来れば、物が売れるのです。当然のことですけれども、実体験としてそのようなことを学びました。

このようなことを通して、時間はかかるかもしれませんが、悩まなければならないかもしれませんが、何か大きなプロジェクトを起こす時には、報・連・相や根回しなどがいろいろとありますが、トライしてみてください。青木村の人は、だめだと思っていたのです。これを打ち上げた時に、議会で「村長、政治生命を懸けてやるのか」と言われました。私は毎日政治生命を懸けてやっていると言ったのですが、2～3年でできるプロジェクトではありませんけれども、それで松本が近くなれば、今、千曲バスとアルピコ交通に上田と松本の高速バスをお願いしています。1時間ですから、通勤・通学ができるので

すね。そのようなことで、一つのトンネルが、バイパスが、地域を活性化する。そして、上田と松本地域の、両方のプロジェクト、両方の住民の幸せになってくるということです。ですから、大義名分があるのです。県も、この大義名分を認めてくれたということになるわけです。

もう一つ例示を申し上げたいと思います。「新幹線のスピードアップ」という、1枚とじ込んでありますね。私は、外から上田・小県地域を見ていました。東京の時間距離をどれだけ近くするかが、佐久・上田・小県の活性化の一つの大きな柱だと思っておりました。埼玉にいました。新幹線のことも担当していた時期もありますので、いろいろと承知していました。JRの人にも、いろいろと勉強をさせていただいております。

一番分かってきた課題は、真ん中の箱を見ていただきたいのですが、上田―大宮―東京間の所要時間ということで、上田―大宮は、最高時速が260～240です。その先の30kmの大宮―東京が、110kmなのですね。従って、上田―大宮は60分かかりますけれども、大宮―東京は25分かかる。このスピードアップをすれば、佐久平と軽井沢、佐久平と上田は約9分です。9分近くなれば、佐久平は軽井沢の時間感覚で人が来る。観光客も、定住する人が増えるということです。同じように、上田もわかりです。そして、真ん中の箱を見てください。いかに北陸新幹線の上田―東京間が遅いかがよく分かりますが、約190km、90分です。新白河は、ほぼ同じ距離で、10分速い80分です。福島は、同じ時間がかかりながら、190kmに対して273kmです。静岡は、同じ180kmに対して61分。これだけ違うかというほど違うのです。

「新幹線を速くしてください」というだけではなくて、このようなものを持って、いろいろな関係筋に陳情するということです。これも、1枚ペラであります。手間暇をかけて作ったものです。そして、提案という形で、これはJRの皆さんにも、県にも、あるいは関係する市町村にもお願いしておりますけれども、東北新幹線は270から320に上げたことがある。東海道も270から285に上げたことがあるということで、そのようなことを提案したり、解決策として四つの例示をやっております。JRのメリットとして、4時間が勝負なのです。ですから、東京―大宮間をやれば、これから函館新幹線、あるいは北陸新幹線を延長した時に、飛行機と勝負できるというようなことを訴えてまいりました。

その結果、昨年はJRの副社長さんにもお会いさせていただきましたし、裏のページをごらんください。6ページです。『日本経済新聞』に投稿いたしました。投稿することもそれほどないのですが、全国紙に載せていただいたのは初めてです。これがわが人生最初と最後になりますけれども、このようなことでぜひ欲しいということで投稿したら、載せていただきました。反響が全国からありました。北海道新聞や福島の首長さん、高崎の皆さんなど、いろいろとありました。その結果ではありませんが、上野と大宮間が1分短縮したのです。これでも30億円かかったそうです。たかだか1分ですけれども、されど1分です。このようなことで、青木村だけではなく、上田・小県、あるいは佐久も含めた地域の活性化に取り組んでいるところでございます。

結びになりますけれども、村長としての信条は、村民の目線ということを申し上げましたが、村民の皆さんの悩みは村長の悩みである。村民の皆さんの喜びは村長の喜びである。そのように思っています。皆さんがいろいろと仕事で悩むことがあると思いますが、そのときは、原理原則はどちらかと思ってください。もっと簡単に言えば、公務員は、悪いことをしなければ何も怖いことはないのです。簡単なことですけれども、そのように思っております。好きな言葉は、少しきざですけれども、「遥かなる明かりを求めて 今日もまたこの道を行く 果てしなき道なれど 選びたる道なれば」という言葉が大好きです。

お約束の時間になりました。特に何か質問はありますか。また電話でもけっこうですから、手紙でもけっこうですから、頂ければありがたいと思います。皆さんの長い人生は、ばら色に輝いております。皆さんの手でしっかりつかんでください。以上で終わります。